

2017年12月20日 担当：清水 勇人

Percutaneous Coronary Intervention of Chronic Total Occlusions in Patients With Low Left Ventricular Ejection Fraction.

Galassi AR, Boukhris M, Toma A, Elhadj Z, Laroussi L, Gaemperli O, Behnes M, Akin I, Lüscher TF, Neumann FJ, Mashayekhi K.

JACC Cardiovasc Interv. 2017 Nov 13;10(21):2158-2170.

心臓カテーテル検査において慢性完全閉塞(CTO)はよく認められる病変である。CTOはPCI不成功率も高く、長期予後も悪い。また左心機能(LVEF)はCAD患者の心血管イベントの最も強い予測因子の一つである。最近LVEFが35%以下の虚血性心不全患者においてCTOが存在すると、さらに予後が悪化すると報告された。

LVEFが低下したCTO患者に対するPCIの成績、予後に関する研究はほとんどない。

本研究はCTO患者をGroup1：LVEF50以上、Group2：LVEF35~50、Group3：LVEF35%以下に分け、PCIの成績と中期予後を検討した多施設前向き研究である。

PCIの成功率は3群間でいずれも高く、合併症率はいずれの群も差がなかった。

PCI後の主要心血管イベントの発症率は3群とも差はなかった。特にPCIが成功すればLVEFが低下していても、LVEFが保たれた群と予後が変わらないことが判明した。しかしPCI不成功例はLVEFの値にかかわらず予後が悪化している。

さらにLVEFが低下した群でPCI成功すると、有意なLVEFの回復を認めた。

本研究の症例は心筋のviabilityが証明された患者に対するものであり、viabilityがない心筋に対する治療の是非までは不明である。しかしCTOに対するPCIが心機能並びに予後を改善する可能性が示され、特に心機能低下例に対し、積極的なPCIの介入が必要と考えられる。